

志賀原発を 廃炉に! 原告団ニュース 第39号

〒920-0024 金沢市西念3-3-5 フレンドパーク石川5F ホームページ <https://shika-hairo.com>

6.30さよなら!志賀原発 全国集会 in金沢 を終えて

全国集会実行委員会事務局長 柚木 光



今年1月1日、能登半島をマグニチュード7.6、最大震度7という巨大地震が襲いました。各地で家屋が倒壊、道路は至る所で寸断され、被災者は恐怖の中で孤立生活を強いられました。火災が発生し、最大4mもの地盤隆起をもたらし、外浦海岸の様子は一変しました。また珠洲内浦海岸、能登町、志賀町まで津波が押し寄せ、これまでに経験したことの無い災害となりました。関連死を含めた死者は318人、家屋の被害は8万棟を超え、未だに1,382人もが避難生活を余儀なくされています(8月1日現在)。

今回の能登半島地震で不幸中の幸いだったことは、志賀原発が稼働停止中だったことです。さらに、20年前、電力3社による珠洲原発建設計画を珠洲市民を中心とした力で断念させたことです。珠洲原発はまさに今回の震源地で計画されていました。仮に建設され稼働していたら、想像を絶する原発震災となり、北信越はおろか東北・関西へも放射能は飛散拡散し、福島原発事故を超える大震災になっていたことでしょう。

今回志賀原発も震度5強の揺れに襲われ、変圧器の損壊、核燃料貯蔵プールからの大量の水漏れ、測定不能に陥ったモニタリングポストが18箇所にも及び、敷地内では79箇所に及び地盤損傷など、極めて深刻な状態に陥りました。同時にこの地震で、毎年行われている原子力防災訓練など全く実効性がなく、「絵に描いた餅」でしかないことが証明されました。

能登半島地震後の3月16日、私たちは「志賀原発にさよなら集会」を開催し、結集した150人を超える県内の仲間と志賀原発の廃炉を改めて確認しましたが、その場で「全国集会 in金沢」の開催を決めました。

以降、3回の準備会と10回の実行委員会を経て迎えた6月30日の日曜日、当日はあいにくの雨模様でしたが、会場のいしかわ四高記念公園には県内・全国から多くの仲間が続々と集まりました。11時30分には飲食・販売ブースが営業を開始、13時からのオープニング・ステージでは、オサムノグチバンドや9条おんがく隊などの演奏で会場は大いに盛り上がりました。

【富山訴訟第19回口頭弁論】

- ◇期日 9月30日(月)午後3時～
- ◇会場 富山地裁⇒弁護士会館(報告集会)

【金沢訴訟第43回口頭弁論】

- ◇期日 10月31日(木)午後2時～
- ◇会場 金沢地裁⇒県教育会館(報告集会)



「原発はカネとウソと買収でやってきた」と鎌田さん

14時から全体集會が開催され、最初に志賀原発訴訟弁護団長の岩淵正明さん、次いでルポライターの鎌田 慧さん、平和フォーラム共同代表の藤本泰成さんがあいさつ、続いて武藤類子さん（福島原発事故被団連）、日野正美さん（女川原発差止訴訟原告団）、星野幸彦さん（柏崎市議会議員）、大石光伸さん（東海第2原発訴訟原告団）、後藤 譲さん（島根原発2号機差止裁判原告）らが発言しました。その後、地元から“のとじょ”、塚本眞如さん（珠洲市高屋町）、堂下健一さん（志賀町会議員）、また老朽原発動かすな！実行委員会（関西・福井）から発言があり、最後に志賀原発訴訟の北野 進原告団長が力強く締めくくりました。

その後パレードに移り、参加者たちは豎町商店街などでラップ調のシュプレヒコールを繰り返し、志賀原発廃炉を金沢市民、石川県民、多くの観光客に訴えました。

私たちの運動はこの全国集會で一つの区切りを迎えましたが、これで志賀原発廃炉が決まったわけでは毛頭ありません。北陸電力はもとより、経団連、そして岸田政権は能登半島地震など一顧だにせず、志賀原発を含めたわが国の原発再稼働の動きを加速化しようとしています。私たちは全国集會の成功をバネに全国の仲間と連帯し、志賀原発廃炉の闘いをさらに強固にそして粘り強く展開していきます。



「反原発」の旗が林立する四高記念公園

寄稿

東日本大震災で、福島県いわき市の親戚がその当時住んでいた東京のわが家に避難してきた。津波だけではなく放射能をも恐れる何とも言えない表情と、わが家に着いて安堵した顔が今でも忘れられない。

そんな経験もあり、原発には反対の気持ちでいた。にもかかわらず、時間がたつにつれて記憶が薄まったのか、原発について話すこともなくなり、意識しなくなった。

今回参加して以前の思いがよみがえるとともに、東日本大震災の時に感じた反原発の思いもよみがえってきた。また多くの人と一緒に闘っていることを知り、心強さを感じた。この運動が一助となり、反原発へ政治が動くきっかけとなればよいと感じた。 (Mさん)

原発問題はたいへん難しい問題だと思います。利益や利権と断じるだけではなく、そこで働く人や家族のことがある。また、二酸化炭素排出の原因である火力発電の代替手段が見つからないことなどで、一筋縄では行かない。火力に頼り続けて二酸化炭素が増え続けることで、温暖化などのさらなる悲劇を生みかねません。

しかしだからと言って、原発が周辺の住民に深刻な不安を与えていることを看過する理由にはならないと思いました。核廃棄物の処分場所も決まっていない現状で、原発が立地する地域の不安、災害時の恐怖をもっと自分事として知らないといけないと思いました。（Kさん）

元旦に発生した能登半島地震により、大地震による原発事故からの避難が著しく困難であるという観点が不幸にも大きくクローズアップされました。また、大地震による断層のずれや地盤隆起には、どんな強固な建築物でも大きな損傷を免れない点も同様でした。

もし志賀原発が稼働中であつたら、どんなことになっていたのか。多くの人がテレビなどの映像から、自宅に取り残され被曝する被災者の姿を強くイメージしました。そのことが今回の全国集会の成功と、マスメディアの取り上げ方にも大きく影響しました。

地震や津波などの自然災害、戦争による核施設への攻撃は実際に起っていますが、政府の原発再稼働の姿勢に変わりはありません。あらゆる核を手放して平和な社会に移行させていくために、これからも平和運動センターに結集して闘っていく決意を表明します。（Tさん）

「さよなら!志賀原発 全国集会」の熱気確かな運動へ 山本 由起子

悪天候にもかかわらず、会場のいしかわ四高記念公園は県内外から参加した1,100人もの熱気に包まれていました。

私は初めて物販・飲食ブース担当を経験しました。いろいろなつながりの中で「能登応援」をコンセプトとする20数店舗に出店していただき、またユニフォームのTシャツ作製もでき、集会を盛り上げる一助になりました。

集会の司会も担当、発言者の熱い訴えが参加者の胸に届き、時折雨が降る90分もの間、みんな微動だにせず熱心に聞き入っている様子に感動しました。また実行委員会の財政事情の厳し



能登半島地震について語る堂下志賀町議と“のどじよ”のみなさん

さを訴えたカンパ要請に対し、会場でたくさんのカンパが集まり安堵しました。

多くの旗が林立する中での千人を超える集会とパレードは、県内では久しぶりです。運動経験の浅い若い参加者にも、運動の継承という点では有意義だったと思います。この集会を契機に、脱原発のうねりをさらに大きくしなければとの決意を新たにしたところです。

北陸電力には原発運転の資格なし!

北陸電力と共に脱原発をすすめる株主の会 中垣 たか子

去る6月26日、北陸電力の株主総会が開催され、能登半島地震後はじめて会長、社長以下取締役等が株主の前に勢ぞろいしました。

志賀原発は3.11の大震災前から1号機は事故停止、2号機はその日に定検入りしてほぼ13年間停止中で、原発震災に至らなかったのは不幸中の幸いでした。誰もが「原発が止まっていてよかった」と安堵し、同時に「もし稼働していたら…」と不安を感じたはずです。

ところが、稼働中に能登半島地震が発生した際の被害想定に関する株主の質問に対して、原子力本部長は「大きな事故が発生する可能性は極めて低い。“止める”、“冷やす”、“閉じ込める”安全上重要な設備は故障していない」と回答。すでに何年間も原子炉は空っぽで、使用済核燃料プール内はかなり冷えていました。もし原発が運転中だったら、震度5強の揺れでも無事に“止めて”“冷やし”、“閉じ込める”ことができたかは未確認です。体験したことのない激しい揺れに^{おび}怯えながら、「原発が稼働中だったら…」と心配した住民の不安など全く考慮していない回答には驚きました。

「地震で原発敷地が隆起したら？」という質問には、「長いホースが準備してある」と「大津波警報が出ている時、誰がホースを海まで引っ張って行くのか？」と突っ込みたくなる珍回答も。珠洲原発計画については「詳細調査を実施する前に計画を凍結した」と、調査もせずに安全キャンペーンをやっていた無責任を自ら認めていました。私は「設置許可申請時にはなかったはずの海域活断層の調査・評価をこれからやることになっていますが、志賀原発は詳細調査を実施せずに建設したということですか？」と質問したかったのですが、これは時間切れで質問できず、残念!

株主総会で改めて感じたことは、北陸電力は原発の危険性に関する認識が欠如していることです。過酷事故を起こせば取り返しのできない大被害が生じることは福島原発事故で明らかです。ところが福島事故から何ら教訓を得ず、能登半島地震の被害も直視しようとしていないのです。

原発を稼働するというのなら、公益企業として過酷事故を防止すべき義務があるはずですが。しかしその前提となる安全意識や責任感が北陸電力には根本的に欠けていて、「原発運転の資格なし!」というほかありません。たとえ予知できたとしても止められない地震も怖いけれど、北陸電力が再稼働に固執しているのも怖いことです。

株主総会は「会社の最高意思決定機関」なのですが、その議事録は議事の概要のみで、正確な質疑内容は残念ながら正式な記録には残りません。しかし総会での北陸電力経営陣の発言を知れば、再稼働を認めてはならないことが実感できると思います。総会の実態を知って伝えることで少しでも脱原発実現の力になるよう、総会に参加する脱原発株主が少しでも増えることを願っています。

 北陸電力

第100回 定時株主総会 招集ご通知

日時 2024年6月26日(水曜日)
午前10時

場所 富山市牛島町15番1号
北電ビル 2階大ホール

議決権行使期限: 2024年6月25日(火曜日)
午後5時まで

↑北陸電力株HPより